

吉田病院ホームページ

TOP に入院相談ページを開設しました！

入院相談ページ開設により
受診から入院までの相談が
シンプルになりました。

WEB 予約を開始いたしました

入院のご相談について

詳細はこちら



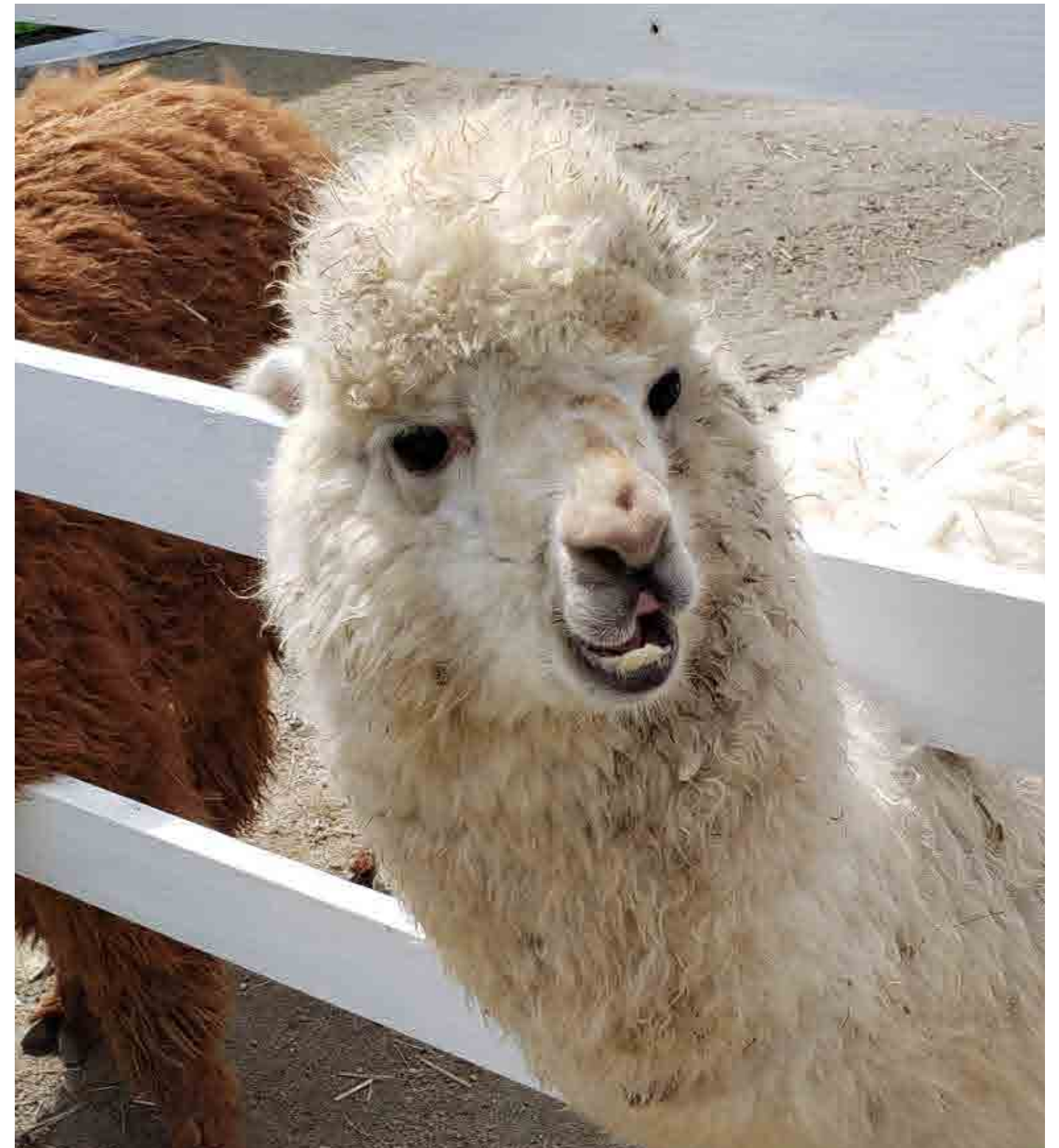
<https://www.keiyukai-group.com/yoshi-hp/>

すこやか

2024.5
vol. 83
free paper

KEIYUKAI NEWSLETTER

ご自由にお持ちください



診療科目

- ・一般内科
- ・消化器内科
- ・呼吸器内科
- ・循環器内科
- ・腎臓内科
- ・内分泌内科
- ・緩和ケア内科
- ・外科
- ・整形外科
- ・泌尿器科
- ・放射線科
- ・リハビリテーション科
- ・歯科・歯科口腔外科

併設センター

- ・呼吸器センター
- ・臨床研究センター
- ・緩和ケアセンター
- ・肝臓病センター
- ・内視鏡センター
- ・人工腎臓センター
- ・予防医療センター
- ・糖尿病・生活習慣病センター
- ・化学療法・治療センター
- ・在宅医療福祉センター

グループ施設

- ・老人保健施設 さくら館
- ・特別養護老人ホーム 養生の杜カムイ
- ・デイサービスセンター ほたる
- ・グループホーム K 館
- ・グループホーム アテナ
- ・特別養護老人ホーム 仁慈苑
- ・デイサービスセンター 透空



医療法人社団 慶友会
吉田病院

■診療受付時間

- 【平日】 午前 8:00～12:00 13:00～17:00
- 【土曜日】 土曜 8:00～12:30
- 【休診日】 日曜日、祝日、年末年始

〒070-0054 旭川市 4 条西 4 丁目 1-2

0166-25-1115

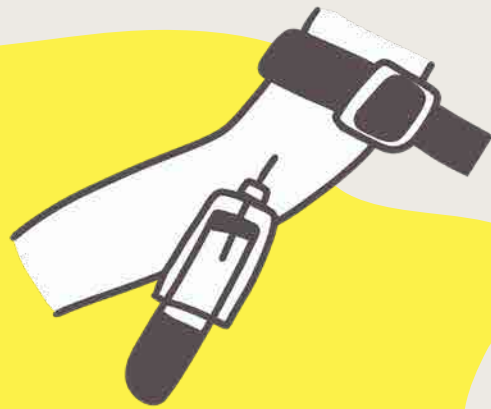
<https://www.keiyukai-group.com/yoshi-hp/>



医療法人社団 慶友会 吉田病院
YOSHIDA HOSPITAL

D-dimer

院内測定を開始しました



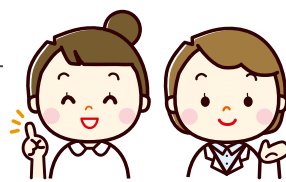
当院の全自動血液凝固測定装置がCA500からCS1600へ変更されました。
それに伴い、新規項目としてD-dimer(Dダイマー)の測定が追加されました。
1月4日より院内測定を開始し、当日中に結果報告ができるようになりました。



全自動血液凝固測定装置

監修：臨床検査課

血液検査・尿検査などの検体検査や、
心電図・超音波検査などの生理機能検査を
医師の指示・監督に従っておこない、
患者さんの身体的データを作成し、診断・治療に役立てます。



01 D-dimerの測定でわかること

D-dimerとは、血栓(血液の塊)中のフィブリンという物質が溶解された際に生じる物質の一つです。血液中に含まれるこの物質の量を調べることによって、体内で血栓(血液の塊)が形成されている、または形成された可能性の有無を推し量ることができます。健常者ではほとんど検出されません。D-dimerの数値上昇は血栓の存在を示しているため、深部静脈血栓症(DVT)や肺血栓塞栓症(PE)等の診断に用いられます。

■D-dimerが上昇する疾患や病態

- ・DIC(播種性血管内凝固症候群)
- ・深部静脈血栓症(DVT)
- ・肺血栓塞栓症(PE)
- ・悪性腫瘍
- ・肝硬変症
- ・大動脈瘤
- ・他、血液凝固亢進状態など

※この中でも、循環器領域では特にDVTやPEを疑う際に測定されます。



02 検査が行われるタイミング

D-dimer検査は上記で述べたような病気の可能性が考えられる場合、病名を特定するための補助的な検査の一つとして行われます。この検査だけで病名がはっきり決まるという性質のものではありません。また、病名がすでに分かっている場合でもその重症度を推し量る、経過をみる目的でも行われることがある検査です。臨床では、DVTやPEの可能性があまり高くない場合に、D-dimer陰性をもって疾患の存在を否定する材料にしています。また、加齢とともに上昇する傾向があります。

2 型糖尿病 の チーム医療 について

糖尿病・生活習慣病
センター長
岡田 瑞穂

旭川医科大学医学
部・卒 / 日本動脈硬
化学会認定指導医



糖尿病とは？

糖尿病は、血中ブドウ糖濃度（血糖値）が持続的に高値となってしまう病気です。なぜ病気かという、高血糖を持続して数年以上放置していると、さまざまな血管や神経に障害を来してしまうことにあります。

血管や神経の豊富な臓器には、脳、網膜心臓、腎臓、自律神経、末梢神経などの臓器があります。

2 型糖尿病について

現在、糖尿病患者さんのおよそ 90% は、2 型糖尿病なので、今回は、2 型糖尿病についての私見を書かせていただきます。2 型糖尿病では、さまざまな病態があります。100 人の 2 型糖尿病には、100 の病態があると言っても過言ではありません。発症年齢、罹病期間、年齢、肥満度、合併症の有無程度、高血圧、脂質異常症の合併の有無等の組み合わせを考慮すると、その病態は様々です。

糖尿病の治療の目的は、健康な日常生活、健康寿命の確保です。

そのために、血糖値だけではなく、体重、血圧、脂質管理が重要です。個々の患者さんの糖尿病の病態に合わせて治療を進めていくことが、重要と考えます。

治療で気を付けることは？

2 型糖尿病にはさまざまな病態があると書きましたが、幾つかの共通項はあります。血糖値が高値をきたし、その変動パターンが健常者に比べ、乱れていることです。2 型糖尿病の基本的な病態には、インスリンの相対的、絶対的不足（高インスリン血症であっても）、インスリン分泌パターンの異常（第 1 相低下を主体とする）と、グルカゴン分泌パターンの異常があります。糖尿病を発症した時点で、本来のインスリン分泌が 0% 低下しているとの報告もあります。

そこで、その少ないインスリンをいかに効率的に作用させ、血糖値をコントロールすることが、治療する上で重要です。

どのようなチーム医療が行われているの？

高血糖が持続している患者さんには、糖毒性の解除。インスリン抵抗性が強く、高インスリン血症をきたしているため、肥満の是正が必要となります。

そこで重要なのが、栄養指導です。

年齢、運動強度、現在の体重から換算して、過不足のない栄養指導が必要です。ここで重要なのが、患者さんと第一目標体重を決めて、まずそれが、3～6ヶ月で到達可能なエネルギー設定を、ドクターが行います。

その指示に従い、管理栄養士、糖尿病療養指導士が優しく、巧みにその患者さんの食生活行動パターンを聞き出し、適切な食事をすることに導いてくれます。これは、診察室のドクターにはできない職人技です。このようなチーム医療を行うことが、糖尿病治療の重要なポイントです。このチームは、糖尿病専門医と日本糖尿病療養指導士（CDEJ）からなります。

CDEJ は、糖尿病治療における生活指導のエキスパートであり、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療養士のうち、日本糖尿病学会の認定試験を合格して資格を持つ事が出来ます。

また、外来では、卓越した接遇マナーで、受付をしている外来クラークさんもチームの大切な一員です。



吉田病院受付前に、 自動精算機を導入しました

お会計時の待ち時間短縮及び業務効率化を目的として、自動精算機が導入されました。

自動精算機は受付前に2台設置されています。

自動精算機を設置したことで、従来よりもスムーズなお会計のご案内が可能となりました。

精算方法はとてもお手軽ですので、ぜひご利用ください！

お会計の流れ

02 請求金額を確認して
支払い方法を選択
(現金 or カード)

01 診察券を挿入するか
受付で渡される
バーコードをかざします

03 支払い後
領収書、診療明細書
がでてきます
お忘れの無いように
ご注意ください

04 ここからおつりがで
てきます、こちらも
お忘れの無いように
ご注意ください

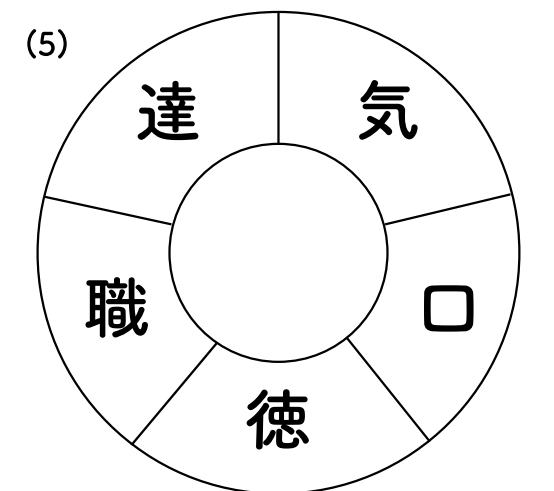
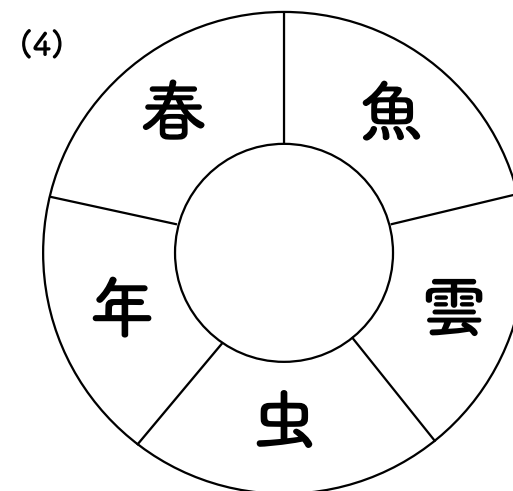
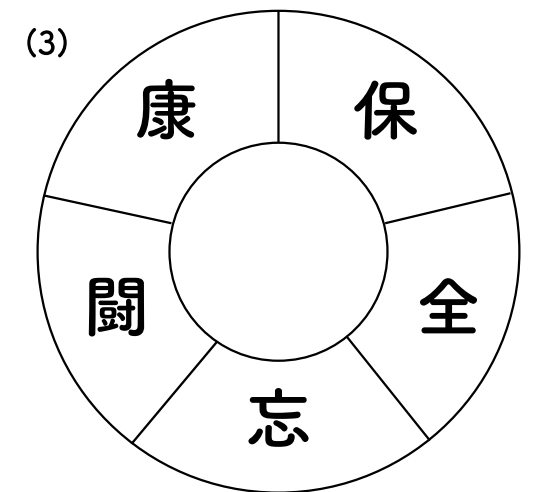
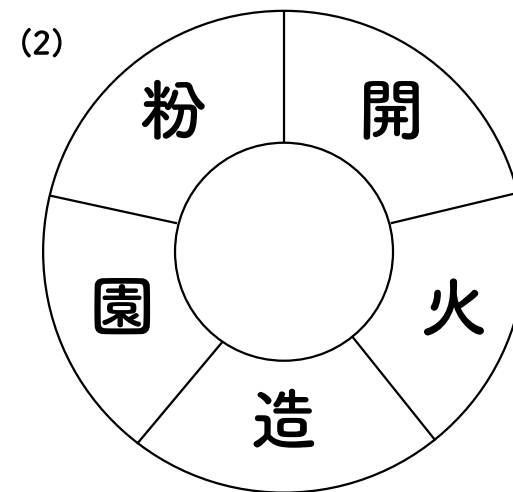
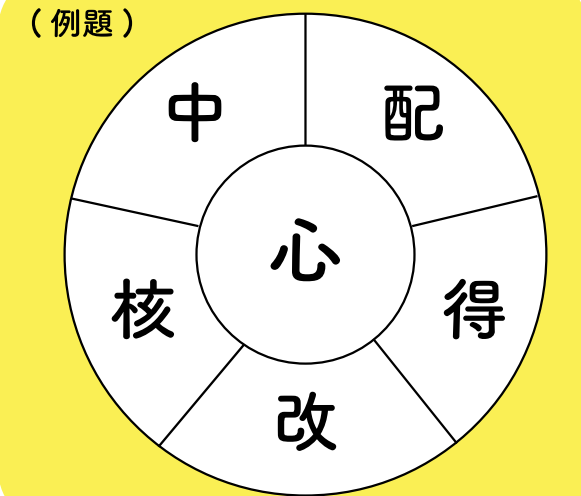
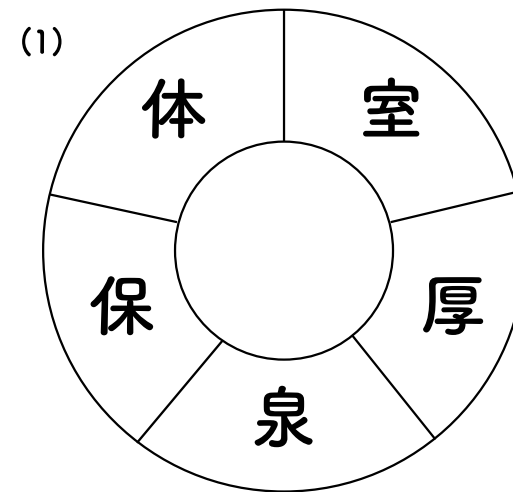


※操作方法等に不安のある方は、近くの職員までお声掛けください。

チャレンジ! 脳トレーニング

周りにある5つの漢字と組み合わせて
熟語になる共通の漢字1字をあてはめ
ましょう。熟語によって中から外へ、
外から中へ読むものがあります。

問題 1



答: (1) 室 (2) 花 (3) 健 (4) 鼻 (5) Y